

# LPGC Report

エルピーガス振興センターレポート  
第45号 July 2012

## 挨拶

山崎理事長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

## トピックス

第22回LPGC成果等発表会開催のご案内・・・・・・・・・・・・ 2

平成24年度第一回理事会及び定時評議員会開催報告・・・・・・・・ 2

## プロジェクトニュース

「LPガス国際セミナー2012」開催結果報告・・・・・・・・・・・・ 3

23年度石油ガス流通・販売経営実態調査・・・・・・・・・・・・ 4

カーボン・オフセットの取り組み（その2）・・・・・・・・・・・・ 5

## 広報室より

・24年度「LPガス講習会」の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

・24年度LPガス広報企画委員会の開催・・・・・・・・・・・・ 8

## 調査研究部より

・中国出張報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

・アジアLPGセミナー（於シンガポール）の参加報告・・・・・・・・ 8

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

## 挨拶



皆様には、平素より当センターの事業にご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。「LPGC REPORT」第45号発刊にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当センターは、昨年4月に一般財団法人に移行し、3月末に第一期を終了しました。去る6月12日に理事会、同26日に評議員会を開催し、平成23年度事業報告及び決算報告が承認されました。概要は、当レポートの中で報告しておりますのでご覧下さい。

さて、先般、総合資源エネルギー調査会の基本問題委員会から、「エネルギーミックスの選択肢」について凡そ3つに絞り込んだ案がエネルギー・環境会議へ提示されました。今後、国民的な議論を経て、選択肢を1つに絞り、新しいエネルギー基本計画に反映される見通しとなっています。

この中で、LPガスは一次エネルギー構成比率の3%を占めるとされ、石油の外出しで位置づけが明確化されました。業界として喜ばしいことであり、エネルギー供給の責務を果たすべく、一層努力してまいりたいと思っています。

基本問題委員会では、資源・燃料政策等の議論が引き続き行われております。この中で、一橋大教授/橘川委員は、LPガス業界にとって大変心強い発言をしておられます。秋に開催いたします、当センターの成果発表会に特別講演者としてお招きし、一連のエネルギー政策見直しの総括と今後のLPガスの果たすべき役割についてご講演いただきますので、皆様のご参加をお待ちしております。

一方、海外のエネルギー情勢をみると、シェールガス・オイル随伴LPガスの日本への供給が、ここに来て現実味を帯び、業界紙はもとより一般紙にも記事が載るようになりました。昨年度に引き続き、本年度の国際セミナーでの重要テーマの一つとして取り上げたいと思います。

当センターとしても、大きく変わる国内外のエネルギー情勢を把握し、今後の活動に反映させるとともに、皆様に情報提供してまいります。

最後になりますが、当センターの事業が今後のLPガス産業の発展へ貢献できますよう、一層のご指導・ご鞭撻をお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

平成24年7月吉日

一般財団法人エルピーガス振興センター  
理事長 山崎 達彦

## トピックス

### 第22回 LPGC成果等発表会開催のご案内

当センターでは、毎年恒例の「研究成果等発表会」を下記の日程にて開催致します。  
昨年、好評を得ました、一橋大学大学院商学研究科 教授 橘川武郎氏 を招き、特別講演を行います。

橘川教授には、今回のエネルギー政策の見直しの総括と今後のLPガスの果たすべき役割についてご講演いただく予定です。

ご多忙の折とは存じますが、皆様のご参加をお待ちしております。

1.日 時 : 平成24年9月26日(水) 13:00~16:30

2.会 場 : 『虎ノ門ツインビルディング カンファレンスホール』  
東京都港区虎ノ門2-10-1

3.プログラム : 7月下旬にHPに掲載いたします。

4.参加費 : 5,000円/名(予定)

5.お申込方法 : 7月下旬に賛助会員様には開催のご案内を郵送いたしますので、同封の「申込書」でお申込みください。また、ホームページからも「申込書」のダウンロードが出来ますので、そちらからのお申し込みも可能となっております。  
尚、定員(250名)になり次第、締め切らせていただきます。

6.申込期限 : 9月12日(水)



一橋大学大学院  
橘川武郎教授

### 平成24年度第一回理事会及び定時評議員会開催報告

当センターの「平成24年度第一回理事会」が、去る6月12日に開催されました。当会では、平成23年度事業報告及び決算報告の件、評議員選任の件、理事選任の件、旅費規程改正の件並びに定時評議員会招集の件について審議し、全会一致で承認されました。

引き続き、6月26日に「平成24年度定時評議員会」が開催されました。山崎理事長の挨拶に続き、来賓として資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課より挨拶をいただいた後、次の3議案の審議を行い、全ての議案が全会一致で承認されました。

**第1号議案** 平成23年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の件  
一般財団法人へ移行後、初年度の事業結果として、収支決算報告を行いました。当期末(平成24年3月31日現在)の正味財産額は429百万円となり、前期末より62百万円の減少となりました。

**第2号議案** 理事選任の件  
今回は、理事の改選期ではありませんが、変更の申し出があり、新しく理事が選任されました。

#### 辞任申出者

伊藤 誠  
[昭和シェル石油(株) ホームソリューション部担当副部長]

平井 信弘  
[全国農業協同組合連合会 燃料部 部長]

塩野 直志  
[東京ガス(株) 原料部 マネージャー]

北嶋 一郎  
[伊丹産業(株) 代表取締役社長]

守屋 憲二  
[伊藤忠エネクス(株) 取締役]

鷹簀 有宇寿  
[東京ガスエネルギー(株) 代表取締役社長]

高澤 一  
[日通商事(株) 執行役員]

近藤 敦  
[株)ミツウロコ 執行役員 エネルギー営業部長]

林 健三  
[一般社団法人全国LPガス協会 専務理事]

村田 暉昭  
[鹿島建設(株) 常任顧問]

#### 新任候補者

富田 浩史  
[昭和シェル石油(株) ホームソリューション部長]

野口 栄  
[全国農業協同組合連合会 燃料部 部長]

宿谷 貴志  
[東京ガス(株) 原料部 部長代理]

布施 俊郎  
[伊丹産業(株) 執行役員液化石油ガス部部长]

中山 昭生  
[伊藤忠エネクス(株) ホームライフ事業本部長]

田中 宏昌  
[東京ガスエネルギー(株) 専務取締役]

高橋 英雄  
[日通商事(株) LPガス担当部長]

川上 順  
[株)ミツウロコ 取締役執行役員 営業統括部長]

大野 栄一  
[一般社団法人全国LPガス協会 専務理事]

松本 隆  
[鹿島建設(株) 土木営業本部 営業部長]

### 第3号議案

#### 評議員選任の件

今回は、評議員の改選期ではありませんが、変更の申し出があり、新しく評議員が選任されました。

#### 辞任申出者

川本 宜彦  
[一般社団法人全国LPガス協会 前会長]

小寺 明  
[一般社団法人全国LPガス協会 前副会長]

#### 新任候補者

北嶋 一郎  
[一般社団法人全国LPガス協会 会長]

谷本 光博  
[一般社団法人全国LPガス協会 副会長]

## プロジェクトニュース

### 「LPガス国際セミナー2012」開催結果報告

『国際セミナー2012』を2月23～24日の両日に亘り、第一ホテル東京(新橋)にて開催いたしました。

1. 日 時 : 平成24年2月23日(木)～24日(金)
2. テーマ : 「変わりつつあるエネルギーフロー ～LPガスの新たな未来に向けて」
3. 招聘先等 : 資源エネルギー庁、日本エルピーガス協会、JOGMEC  
英国ノポータン・アンド・パートナーズ、世界LPガス協会、英国ノクラークソンズ・ガス、  
韓国ノE1コーポレーション、アブダビノADNOC、中国ノICISチャイナ、カタールノTasweerq、  
インドノIOC、サウジ・アラムコ、米国ノエンタープライズ、  
シンガポールノファクツ・グローバル・エナジー (国内3名、海外11名)

4.参加者：約550名(過去最高)

5.概要：

冒頭、山崎理事長の開会挨拶に続き、来賓として高原資源エネルギー庁長官の歓迎挨拶をいただきました。

【1日目】 コンサルタント会社であるポータン・アンド・パートナーズによる欧米及びアジア市場のLPガス需給動向及びシェールガス開発状況等に関する基調演説で幕を開けました。

日本サイドからは、資源エネルギー庁による日本のLPガス政策に関する講演と日本LPガス協会による震災復興とLPガスフローに関する講演をいただきました。



LPガス産出国を代表するサウジアラビア、カタール、及びアブダビからは、各国のプロジェクトの状況とLPガス生産予測と輸出計画が発表されました。一方、アジアの主要LPガス消費国からは、インド、中国、韓国からそれぞれ補助金による家庭用LPGの普及、PDHによるプロパン輸入増やオートガスの減販等について、講演がありました。

また、海運コンサルタントのクラークソンズ・ガスや世界LPガス協会が講演をおこないました。



【2日目】 JOGMECと米国ガス・ミッドストリームのエンタープライズより、シェールガスと随伴するLPガスについて話をさせていただきました。なお、コンサルタント会社のファクツ社からは、石化関連の講演がありました。

本セミナーにおいては、講演終了毎の質疑及び全講演終了後の総括質疑を実施し、世界各国から参加するLPガスに関わる関係者間で、有意義な討議がなされました。

皆様のご支援をもちまして、本セミナーを成功裡に開催することができました。本セミナーにご尽力頂きました関係各位に感謝申し上げます。

なお、次回の「LPガス国際セミナー - 2013」は、平成25年2月28日～3月1日にて、第一ホテル(新橋)で開催の予定です。

(調査研究部 岩田総括主任研究員)



## 23年度石油ガス流通・販売経営実態調査

### LPガス販売事業者の経営実態調査

LPガス販売事業者の経営状況と抱える諸問題についてアンケート調査を実施し、分析及び経年比較を含む結果の取りまとめを行いました。

詳しくは、当センターのHPに掲載(7月中旬予定)されますので、ご覧下さい。また、9月26日に開催します当センターの「研究成果等発表会」においても、詳しい解説を行います。

## 家庭用等小口需要向けのLPガス配送の低炭素化調査

現行のエネルギー基本計画は、LPガスは「家庭用等小口需要に対する配送の低炭素化を進めることが重要である」としています。実現のための基礎資料とすべく、アンケートとヒアリングにより、配送の運行実態及びCO<sub>2</sub>排出の実態を調査するとともに、低炭素化に向けた業界の取組状況について調査を行いました。

配送業務を行っている事業者のうち、約半数が低炭素化への取組を行っており、その中の1/3強は効果の検証まで行っていることがわかりました。

どのような取組みが低炭素化につながるのか認知していない事業者も多く、今後、業界としてその普及啓発活動が重要であると推察されます。

また、低炭素化の取組効果は、燃料消費量と総走行距離や配送数量を記録し、データ化することにより把握できます。こうしたデータを更に整備することで、業界の標準指標としてのCO<sub>2</sub>排出量の公表や目標値の設定を行ってまいります。

(調査研究部 八鍬総括主任研究員)

## カーボン・オフセットの取組み (その2)

前回のLPGCレポートでは、カーボン・オフセットとクレジット制度の概要の一端をご紹介しました。今号では、現在これらの制度について大幅な見直し作業が行われていることと、前号に引き続き具体的な活用例等をご報告いたします。

### 1. 制度見直しの動向

カーボン・オフセットの仕組みには、事業者等の温室効果ガス排出の埋め合わせを認証する「認証制度」と、埋め合わせに利用するクレジットを創出する「クレジット制度」の2種類があります。

それぞれに複数の制度が混在しますが、京都議定書の第一約束期間(\*1)が終了することもあり、制度自体を大幅に見直そうという動きにあります。温室効果ガスの排出削減は、引き続き世界的に求められています。我が国においても、低炭素社会の構築にどう取り組むかということが重要な政策であることには変わりません。

(\*1)京都議定書で定められた第一段階の目標期間で2008年から2012年までのこと。

こうした状況の中で、カーボン・オフセットの取組みを更に活性化させるため、国は現行の各制度の整理と統合を行っております。その概要を次に説明いたします。

#### (1)新認証制度の動きについて (運営委員会事務局/環境省)

従来は、「カーボン・オフセット認証制度」と「カーボン・ニュートラル認証制度」(\*2)の二つの制度がありましたが、取組みが伸び悩んでいる等の課題がありました。平成23年度の「カーボン・ニュートラル等によるオフセット活性化検討会」で、取組みを幅広く汲み上げやすくする事が提言され、24年5月17日、制度が一つに統合されました。

旧制度では、個々の案件について各運営機関自体が認証を行っていましたが、新しい制度においては、統一した基準に従い、登録された複数の認証機関が認証を行う事になり、旧制度の各運営体制の整理統合も行われ、「全体のルールを整えて、全体を活性化して行こう」ということで、スタートが切られました。

(\*2)カーボン・オフセットを更に深化させ、事業者等の活動により排出される温室効果ガス総量を他の場所で実現した削減・吸収量でゼロにオフセットする取組み。

#### (2)新クレジット制度の動きについて (検討会事務局/環境省、経済産業省、農林水産省合同)

こちらも、当初の目的や運営主体によって様々な制度があり、活用機会の増加に伴い共通する部分が増えてきました。その中で「J-VER 制度」や「国内クレジット制度」は利用者が多く、2012年度末が制度の区切りという事もあり、今後の在り方に関する検討会が開かれました。

最終結論は、優れた点を相互に補完しあいながら統合するという事で合意し、6月18日で検討会は一旦終了とな

りました。新たなクレジット制度は、「参加しやすく、環境面での信頼が得られやすく、適用範囲が広く、地域活性化につながり、国際的にも評価される内容とすべき」とされ、現在、細部の仕組みについて検討が進められています。

新制度は2013年度から2020年度までの期間を予定しており、その後は改めて検討が行われる事になっています。また、現行制度の停滞や、利用者の不利益が生じないよう、新制度でも継続できるなどの移行措置も考えられています。

## 2. 活用の具体的事例(国内クレジット制度)

### (1) ヤンマーエネルギーシステム(株)の取り組み

【概要】 園芸農場において電気空調とA重油加湿器を利用していたものを全てGHP(LPガス)に燃転し、クレジットを創出しています。

排出削減事業者: 日野洋蘭店  
共同実施者: ヤンマーエネルギーシステム

推進事業者のメリットは、認証取得をHPへ記載する事による企業PRであり、ヤンマーにおいては、自社事業のカーボン・オフセットにクレジットを使用しています。



### (2) 経済産業省の取り組み

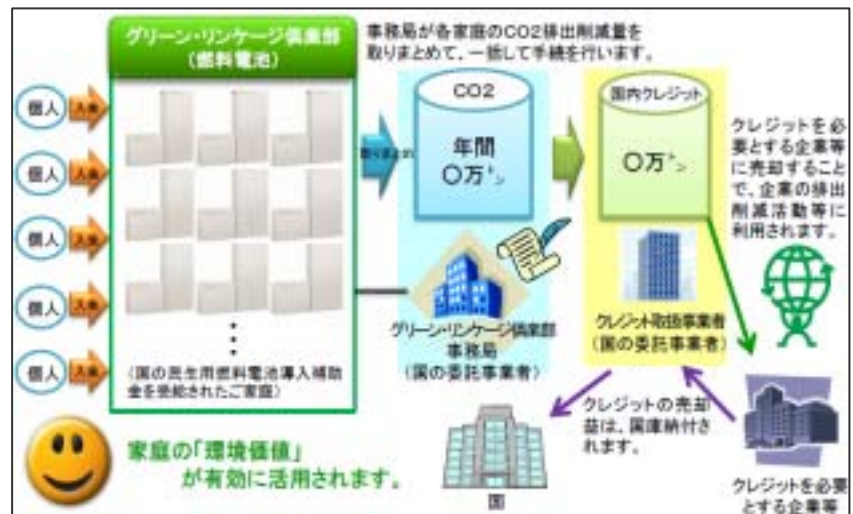
【概要】 エネファームを設置した家庭を「グリーン・リンケージ倶楽部」会員とするプログラム型排出削減事業(\*3)でクレジットを創出しています。

排出削減者:  
グリーン・リンケージ倶楽部  
(国の委託事業者が管理)

この取り組みは、国が管理し、創出したクレジットを、別の低炭素投資促進機構(国営)へ譲渡し、企業のカーボン・オフセットとして売買を行い、クレジット売却益(国庫納付)を得るようになっていきます。

一般消費者にとっては、エネファーム設置が国の補助金を得るだけでなく環境対策に貢献していることを理解していただくことになります。国としては、カーボン・オフセットのPRであり、クレジット市場の活性化が図れることとなります。

(\*3)複数の排出削減事業者をまとめて一つの排出削減プロジェクトとする取り組み。



二つの新制度は、どちらも広く取り組みやすいシステムに変え、国が普及を後押ししていくという格好で進められようとしています。具体的な活用例も業界内に出てきております。振興センターでは、引き続き、制度の内容・方向性等を注視し、LP ガス業界内の事例は勿論、業界外の事例でも参考になるものを調査し、情報提供を行って参ります。

(技術開発部 平原主任研究員)

## 広報室より

### 1. 24年度「LPガス講習会」の紹介

広報室では、ご家庭でLPガスをお使いの皆様が、適正な取引のもとで、安全・安心にお使い頂けるよう「LPガス講習会」(無料)を開催しております。

#### (1)講習内容

非営利法人として公正な立場から消費者視点に立ち、LPガスの取引適正化(料金、売買契約等)、LPガスの基礎知識、災害対応、安全性、環境性、利便性などを基本テーマとし、主催者ニーズをお聞きし、より新しい情報や身近な情報・知識の提供を行っています。

#### (2)実施要領

右図の講習会開催要領を全国の消費者団体、都道府県及び市町村の消費生活相談窓口、エルピーガス協会及び各都道府県エルピーガス協会等へ送付し開催を促しています。

23年度は、日本LPガス協会主催の国家備蓄基地親子見学会での体験型講習会、千葉県生涯大学校での高齢者向け講義、消費生活専門相談員向けの法律勉強会等も加えて、計31回を開催しました。

実施日時は、午後5時以降の夜間や土・日、祭日も可能とさせていただいております。夜間しか時間の取れない消費者団体等への普及促進を図っています。

#### 講習会の形式

スクール形式(双方向)の講座形式を中心に行なっています。懇談会やシンポジウム、セミナー、地域イベントの中でのプログラム、研修会、公民館・自治会活動等の一環としての活用など、相談の上、自由な形式の選択が可能です。

#### (3)23年度実施のLPガス講習会(法律問題の勉強会)のご紹介

講習会の中から、法律問題勉強会の開催について紹介させていただきます。

LPガス消費者からの問合せに適切なお応えができるよう、消費者相談員の方々を対象としたLPガス法律問題の勉強会を、東京にて平成23年10月19日、平成24年3月7日の両日、2回開催しました。

初回は、契約・料金・保安(液石法)の基礎編をセンター職員が説明し、契約トラブル判例に基づく解説を半蔵門総合法律事務所の野崎 修 弁護士より解説いただきました。

また、2回目は特商法違反の刑事裁判事例等を中心に野崎弁護士より解説頂き、消費者相談員の方々からは日頃から疑問に思っているまたは抱えている具体的な相談項目について野崎弁護士へ質問するなど、熱心に活発な有意義な講習会となりました。





## 2. 24年度LPGガス広報企画委員会の開催

広報室では、当センターが実施する普及啓発活動がより効果的となるようにと、一般消費者関連情報に詳しい消費者団体、消費生活専門相談員や関連分野の学識経験者、専門家等の出席を得て、「LPGガス広報企画委員会」を年間2回開催しています。こうした方々のご意見を参考に、事業をすすめております。

去る6月21日に、第1回広報企画委員会を開催しております。各委員は次の通りです。

【消費者団体】 日本消費生活アドバイザー・コンサルティング協会、主婦連合会  
【学識経験者】 青山学院大学 総合文化政策学部、東洋大学 社会学部  
【関連団体】 全国LPGガス協会、日本LPGガス協会、キッチン・バス工業会  
日本エネルギー経済研究所 石油情報センター

(広報室 安藤室長)

## 調査研究部より

### 1. 中国出張報告

#### (1) LPG国際会議

当センターは、広東油気商会より、同商会主催「第17回中国国際LPG会議」にプレゼンターとしての招聘を受け、去る3月28～29日に南京市を訪問し、「東日本大震災後の日本のLPGマーケット状況」と題したプレゼンを行いました。

当会議での意見交換において、特筆すべき事項は次の通りです。

中国におけるLPG需要は、天然ガスやDMEに置き換えられつつあるが、依然として一定数量は民生用として存在しており、農村部に拡大してゆく事を考えれば、今後も底堅い需要が存在する。

PDH(プロパン脱水素)案件の数は、事前に調査している以上の数が存在しているようで、各社共に積極的に推進中と口を揃えている。具体的な進捗状況は、一部を除き不詳であるが、今後の動きに要注視。

石化向け、特にPDH向け需要が今後増大することを受け、「LPGの春がやってきた」と言う前向きな発言が出ており、LPG需要拡大に楽観的な見方が多かった。

#### (2) 中国都市ガス協会LPG委員会を訪問

上述の会議終了後、北京に移動し、中国都市ガス協会LPG委員会 / 熊副秘書長と面談を行いました。同協会は、中国国務院建設部に連なり、全国約1,800社の都市ガスとLPGガス関連企業とメーカーが加盟している民間非営利団体です。但し、実体は半官半民と見てとれます。中国ではLPGガス業界を統括する全国組織は、このLPG委員会以外には見当たらないようです。熊副秘書長より、お聞きした主な内容は次の通りです。

第12次五カ年計画におけるLPG産業の具体的内容を現在編制中。LPGの安全規格の制定、流通・販売体制の整備やLPG車の普及などに力を入れる予定である。

熊秘書長は今年再度の訪日を予定しているとの事で、日本の実情を視察して、政府に対する報告と共に、国としての制度化を推進したい旨の発言あり。

訪日に際しては、是非当センターを再訪して欲しい旨を伝えたと共に、今後もLPGガス需給・流通などに関して連絡を取り合い、情報交換を行っていく事を約した。

### 2. アジアLPGセミナー(於シンガポール)の参加報告

去る6月19～20日の両日、シンガポールで行われたパービン&ガーツ社主催の第16回アジアLPGセミナーに参加しました。

登録参加者は120名程度とありましたが、実際に講演を聴講していたのは半分程度で、年々、登録参加者と実際の聴講者共に減少傾向のようです。一方、会場のホテルには世界各地からLPG関係者が集合し、個別のミーティングを行っています。

今回の参加目的は、次の通りです。

国際LPGマーケット状況に関する最新情報の入手。

LPGガス国際セミナー2013 に向けて、テーマ・講演者の選定に関する材料の収集。

当該セミナー参加者と積極的に交流し、今後の国際LPGマーケット情報入手の一助とする。

主な講演者・テーマは、下記の通りです。

中国LPGマーケットの最近の発展	広東油気商会	ケティー・ドゥー
アジアの石化産業における原料としてのLPGの将来の役割	シェル	アンジェリン・ヤップ
中国の石化産業向けLPG需要	ICIS	ケン・チェン
北米のLPGマーケット - シェールガス・オイルのインパクト	パービン&ガーツ	ウォルト・ハート
米国中流分野の現状とLPG輸出の拡大	タルガ・リソーシズ	スコット・プライヤー
異常なLPG価格関係:何が?なぜ?何時まで?	パービン&ガーツ	ロン・ギスト

2月に行われたLPGガス国際セミナーでも注目を浴びた「北米シェールガス由来のLPG供給」と「石化原料用LPG需要」という二大テーマについては、このセミナーにおいても複数のプレゼンが行われました。

前者に関しては、北米ミッドストリームの業界大手で、2月のLPGガス国際セミナーで大きな注目を浴びたエンタープライズ社と双璧をなすタルガ社が、「米国ミッドストリーム分野の現状とLPG輸出の拡大」と言うテーマでプレゼンを行っております。会場から質問が殺到し、また、プレゼン後も多くの参加者に囲まれるなど、今回最も注目を浴びた講演者となっていました。「北米のLPGマーケット - シェールガス・オイルのインパクト」と題したパービン&ガーツのプレゼンも興味深いものでした。

一方、石化原料用需要に関して、シェル・ケミカルの「アジアの石化産業における原料としてのLPGの将来の役割」と題したプレゼンは、今まであまり聞くことの出来なかった需要家側からの考え方と言う意味で、興味深いものでした。中国からは二つのプレゼンが行われましたが、10件近くのプロジェクトが建設中といわれるPDHに対する関心の高さが伺われました。

LPGガス国際セミナー2013においても、上述二大テーマは引続き重要なテーマになるであろうとの思いを強くしました。また、LPGガス国際セミナー講演者への招聘につき何人かと話をしましたが、「当該セミナーはロジも運営も素晴らしいので、そこで講演できる機会があるなら喜んで引き受けたい。」と、ありがたい回答があり、今年度開催に弾みをつけていただいた思いがしました。

尚、今回のセミナーにおけるプレゼン概要については、センターホームページ「国際交流事業 / 3 . 海外LPGガス情勢」にアップする予定です。

(調査研究部 宮総括主任研究員)

## 編集後記

エネルギー供給にいろいろな問題を抱えた中で、再び暑い夏を迎えることとなります。病気療養中の人やお年寄りにとっては、エネルギーが途絶えることは生命に対するリスクを高めることになりかねません。また、エネルギー供給の不安定化が日本経済に対する大いなるリスクとなることはいうまでもないでしょう。

原子力発電所を稼働させることのリスクもあれば、動かさないことで生じるリスクもあります。すべてのことに大なり小なりリスクはつきものです。火力発電所も風力発電所もいろいろなリスクを抱えています。要は、総合的にリスクを減らす現実的な方法を考えることが大事だと思われます。

とかく目に見えないものや経験したことの無いものについてはリスクを高く感じ、恐れを抱いてしまいがちです。まして、悲惨な現実を見ると人は強い感情を抑えがたくなるのは当然のことです。しかし、逆にそういう時こそ冷静な判断が求められるのではないのでしょうか。

原子力の専門家に「原子カムラ」といったレッテルが貼られることがあります。果たして冷静な見方といえるのでしょうか。専門家の意見は所詮素人にはわからないから、という理由で専門家の意見を聴くことを頭から拒否しているだけではないのでしょうか。レッテルを貼って自らを思考停止状態にしているだけのようにも思えるのですが。

歌舞伎の舞台では善玉・悪玉がはっきり分かれ、隈取を見ただけでもすぐわかります。しかしながら、実際の世の中はそう単純ではありません。見る角度により、善にもなれば悪にもなります。時間や環境次第で善悪が変化したりもします。レッテルを貼って勧善懲悪の世界に浸るのではなく、そして素人であることを威張るのではなく、専門家の話を理解しようとする謙虚な姿勢が今こそ求められているのではないのでしょうか。

エネルギーのあり方については、国民ひとりひとりがしっかり考えるべき課題です。従来は専門家におまかせでよかったのかもしれませんが、専門家の意見を踏まえて自ら考えるべき時代が来ているように思われます。

LP ガスもわが国のエネルギー供給の一翼を担うものとして、その役割を果たしていくことが期待されています。世の中から予断の無い姿勢で評価をいただくことを心から期待しています。

(専務理事 菊岡)

一般財団法人  
**LP GC** エルピーガス振興センター  
CENTER



〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目 19 番 5 号 虎ノ門一丁目森ビル4F

TEL : 03 - 3507 - 0041 (代表)  
03 - 3507 - 0046 (広報室)

FAX : 03 - 3507 - 0048

ホームページURL : <http://www.lpgc.or.jp>

Eメールアドレス : [info@lpgc.or.jp](mailto:info@lpgc.or.jp)



送付先変更等のご連絡は、FAX又はEメールでお願いします